

MULレディース

発行責任者
富田 正子
編集責任者
小野 由美子

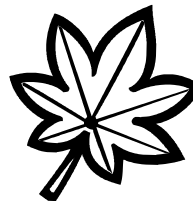
連合中央女性総会開催

台風上陸が懸念された、10月25日（金）に東京ビックサイト会議棟7F国際会議場にて、2013連合中央女性集会在開催されました。事務局発表によると、この台風の中、全国から女性705人、男性310人、計1,015名が集結しました。

プログラム



- 1開会 宇田 珠美 連合中央執行委員
- 2主催者代表挨拶 古賀会長 「今春闘はベア1%の要求する」
- 3来賓挨拶 郡 和子民主党女性委員長
橋本 葉子国際婦人年連絡会世話人「医学会もまだまだ男女差がある」
- 4基調提起 南部 美智代 連合副事務局長 「女性役員比率目標に届いていない」
- 5講演「男女平等参画と女性の活躍促進－「女性が日本を救う」ために必要な条件－」
講師 大沢真理 東京大学社会科学研究所教授
- 6パネルディスカッション「男女平等参画推進とワークライフバランス」
パネリスト 渥美 由喜 厚生労働省政策評価に関する有識者会議委員
ミッコ・コイヴマー 駐日フィンランド大使館参事官
堀江 敦子 スリール株式会社代表取締役社長
- コーディネータ 榊原 智子 読売新聞東京本社社会保障部次長
- 7集会アピール選択 山田悦子 連合北海道 女性委員会委員長
- 8閉会 岡本直美 連合副会長



本社支部 能城恵

今年の連合中央女性集会は台風が心配されましたが、小雨の中無事開催されました。今期は『第4次男女平等参画推進計画』がスタートされます。働きがいのある人間らしい仕事の実現と女性の活躍の促進。仕事と生活の調和。多様な中間の結集と労働運動の活性化。以上3つの目標を掲げていますが、現在の日本では実現は困難であると講演を聞き思いました。そんな中でまず自分に何が出来るか。午後のパネルディスカッションではワークライフバランス（WLB）について講師3名の話しを聞きました。特にフィンランド大使館の方のお話では今回の計画がなされた国の現状が語られとても参考になりました。

本社支部 大嶽栄央

パネルディスカッションの中で、フィンランドの大使館のミッコさんのお話が日本とフィンランドの男女平等の比較がありとても興味深い内容でした。日本は三重苦を背負っている問題（・待機児童・長時間労働・思想（妻は家庭、男性は仕事など））が、なかなか変えられていない現状があります。一方、フィンランドでは、1970年代に子供保護法が制定され、今の日本のような問題を30年前に越えられ守られています。フィンランドは人口が少なくみんな働かなければならないため、男女の垣根なく女性が貪欲に生きていることを知りました。仕事をしたい！子供もほしい！お金もほしい！日本の女性も、もっと頑張らないと！と思いました。女性がより活躍するには男性の意識改革や協力がもちろん必要になってきます。日本の女性が働いたらGDPが10%上がると推測されています。今回の学んだことを地域・職場に持ち帰り、自分がなにができるのか男女平等を現場から実践することを考えていきます。『男性はゆずる勇気を、女性は前に出る勇気を。』この言葉が心に残りました。

厚木支部 外山和美

「男女平等参画と女性の活躍促進－「女性が日本を救う」ために必要な条件」をテーマに東京大学社会科学研究所教授 大沢 真理先生の講演を拝聴しました。中でも、教育に対する公的支出はOECD諸国で最低。特に就学前教育と高等教育で私的負担が重い、女性の活躍促進というなら、均等法を強化し、「働くことが報われる」税・社会保障制度を！というお話に共感をしました。午後からは、(株)東レ経営研究所 渥美 由喜氏、駐日フィンランド大使館報道・文化担当参事官 ミッコ・コイヴマー氏、2010年にスリール(株)を立ち上げた28歳の堀江敦子さんとコーディネーターの読売新聞東京本社 社会保障部次長 榊原智子さんのパネルディスカッションが行われました。自ら4ヶ月間育児休職を取得した渥美さんは、1～5日の育休をとる「なんちゃって育休」が大半と話されていました。確かに、私のまわりでも育休を取った男性の話は聞いた事はありません。「マタニティ・ハラスメント」という新しい言葉もできました。男性社員が育児休業を取ったり、育児のための短時間勤務やフレックス勤務をしたりすることを妨げる行為だそうです。男性がせめて1カ月は育児休暇がとれるような環境になるには、上司の認識から変えていかなければならないかと思いました。これからは、育児だけではなく、介護人口も増えていきます。介護の為に会社を辞めるようなことが無いような社会を作りあげていかなければいけないと思います。労働組合の連帯の輪、女性の連帯の輪を世界に広げよう！ということで今年MULで取り組んだ公益財団法人ジョイセフのチャリティーアイテムのお知らせもありました。ピンキーリングの他にキリマンジャロ・フェアトレードコーヒーの販売もしているそうです。ここちらも今後、紹介ができればといいなと思いました。

本社支部 富田正子

今回の女性集會に参加し、パネルディスカッションの方々の意見交換を聞いている中で特に、家族の顔が見えることにより、一緒に働く側も共感し働きやすい職場環境が出来るということを、感じました。組合、と言う立場はそれが出来る組織であるから、今後の職場環境改善になるためにも、家族も参加できるようなイベントを仕掛けていくことの大切さを強く意識しました。